



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリストの新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕

〒181-0011 東京都三鷹市井口3-15-6 池の上キリスト教会内 日本クリスチャン・アシュラム連盟 振替口座 東京 00100-1-4558

アシュラムの恵み



日本基督教団 香櫨園教会

牧師 森 哲

私がアシュラムと出会ったのは二〇一〇年、香櫨園教会に赴任して最初の秋だった。それまでは名前を聞くくらいで、聖書を読んで、お話を聞いて、お祈りする集会くらいにしか思っていなかった。香櫨園教会に赴任して聖書研究祈禱会をしていた時に、雑談としてアシュラムの話が出た。そうすると教会員の西村或松さんから古河治名誉牧師が関西アシュラムの責任者のお一人であること、間もなく九月には関西アシュラムが行われるということを知らされたのである。

私は香櫨園教会に赴任する前の一年は、良く言えば浪人・自由人であり正確に言えば失職の身であった。浪人・自由人になる始めに決めたのは、将来の事は別にして、新しいことに挑戦する、誘われたら自分には無理と思えても断らない、礼拝は教団の教会ではなく、近くの教会に通うという三点を自分の中で決めたのだった。そして一年、自分なりに充実した生活を送りリフレッシュして香櫨園教会に招かれた時であった。

西村或松さんのお誘いは、先の新しいことに挑戦すること、誘われたら断らないことに当てはまった。もうひとつ教団以外の教会で礼拝を守っていたことも、アシュラムに参加するにあたって大きな恵みであった。失礼を承知で書くが、日本基督教団という教派の中に長年いると、他教派に目を向けなくとも別に困りはしないのである。その教団から離れて一年、他教派の二つの教会で半年ずつ礼拝を守らせていただいたことにより、

アシュラムの「超教派」という集会に躊躇なく出席することができるようになっていたのである。当たり前のことだが、どこの教派であれ、神さまに向かつて礼拝を捧げ、イエスさまの十字架によって罪赦されていることを告げていることを知らされたことにより、教派の壁は簡単に乗り越えられたのであった。

本当にこの一年という時間は、自分の思いではなく神さまからの導きであったと今さらながら思うのである。だが、欠けていてもアシュラムには繋がらなかったと強く思うのである。その時、その場所を神さまが備えてくださったことを、改めて振り返り感謝したい。

そのような訳で、初めてのアシュラムは非常に深く私の心に染みこむ体験となったのである。聖書の言葉を聞く時、祈りの時、分かち合う時、それぞれが自分のこれまでとは異なるものでありながら、心地よく受け入れていただけるとなった。

その後、委員の一員として受け入れていただき、事務局の仕事を与えられた。まだ十分にアシュラムを理解していない時であったので、いささか困惑もした。しかし、一年かけて祈りながら準備をされていく委員会に出席していると、そこにも神の恵みと導きが豊かに注がれていることを知らされるようになったのである。

想 霊

祈りについて



日本基督教団
東調布教会
牧師 島 隆三

「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見出し、門をたたく者には開かれる。」(マタイ福音書7章7〜8節)

祈りについて、大きな励ましを与えられる主イエスの勧めである。信仰生活は祈りの生活だから、お互いに祈りについてはいろいろ考え、また、学んできたに相違ない。祈りの勧めには、大雑把に二通りあるのではないかと思う。一つは、上記の主イエスの祈りの勧めに見られるように、諦めず熱心に祈り続けよという勧めである。エフェソ6章18節その他使徒の教えにも見られる。

しかし、もう一つの祈の勧めは、「祈りとは神の御心になることを祈るのであり、自分の願望を神に押しつけることではない」ということを強調する教えである。主の祈りでも「御心の天になる如く…」と私たちは日毎に祈っている。ヨハネの手紙にも「何事でも神の御心に適うことを私たちが願うなら、神は聞き入れて下さる、これが神に対する私たちの確信です。」(5章14節)と祈りにおける「神の御心」が重視されている。しかし、ここにも落とし穴があつて、

神の御心が成るのなら殊さらに祈らなくても良いではないかという疑問も湧いてくる。これは、人間のなすべき領域と神の働く領域とを混同した誤りであると思う。

小原十三司師は「信仰と祈りの人」と言われた。戦災で焼けた淀橋教会堂の戦後の再建も、正に祈りの戦いであつた。一〇〇〇人収容可能な会堂を得たいという小原師のビジョンが示され、当時の教会報を見ると、まず土地が与えられるように「祈れ、祈れ」と、何度祈りの勧めがなされていることか。祈りに祈ってもなかなか適当な土地が与えられないので、鈴子夫人が思わず「元の所に建てましょうか」と洩らされると、「そんなことは考えたこともない」と小原師は一蹴して祈り続けた。ところが奇跡的に道が開かれ、大久保駅のプラットホームのすぐ真下に一〇〇〇坪余りの土地が与えられたのである。正に神の恵みと教会の祈りの賜物以外とは思われない。そして、与えられた土地に一〇〇〇人収容の大会堂を建てようと言う小原師のビジョンが改めて示され、また、長い祈りの戦いが続く。しかし、さすがの小原師も、何年もかかる大会堂建設の最中には、いろいろお考えになることもあつたようだ。会堂建設のさ

なかの礼拝でなされた説教の中で、「以上の如き事情の下に前進しながらも、現実をありのままを見つめてみると、時に、私は大変なことだと思ったり、また考えたりする場面がある。その時直ちに私の心に、このような思惑を神がお喜びにならないように思われて、そうだ『もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら…』と、気を取り直すと、神は喜びたもうように信じられ、この事を繰り返して繰り返して今日に至つたのである。」(昭和三十年『不可能事のために祈れ』説教集『流れの小石』より)この信仰と祈りの戦いによつて、大会堂の建設というビジョンは実現したのである。淀橋教会の大会堂ほど、戦後の様々な集会用いられた所はないであろう。

以上、二通りの祈りの勧めについて考えてきたが、主イエスの勧めも、初めに記したように諦めずに祈れと私たちに教えている。しかし、主イエスご自身の十字架を前にしたゲッセマネの祈りはこの両方の祈りが一つになった、正に究極の祈りであつた。主イエスは夜を徹して、血の汗を滴らせながら、かく祈られたのである。

「アッバ、父よ、あなたには何でもおできになります。この杯をわたしから取りのけてください。しかし、私が願うことではなく、御心に適うことが行われますように。」(マルコ14章36節)。

この祈りにより、神の御子の十字架による人類の救いというこの上ない神の大事業は成つたのである。

第52回

九州アシラムに

参加して

日本バプテスト連盟

門司港キリスト教会

信徒 石橋由美子

9月18～19日まで開催された第五十二回九州アシラムに参加がゆるされ感謝いたします。

毎年、多忙な中でアシラムのためにご奉仕して下さる事務局の方々に感謝いたします。

私がアシラムに参加するようになったのは、スタンレー・ジョーンズ博士の著書「神の然り」を読んで、博士のことを知り、また牧師に紹介されたことでした。博士の長年にわたる日本での伝道活動を知り、どのような活動なのか知りたくて参加を思いました。

九州アシラムの会場である福岡黙想の家は、自然豊かな住宅街にあります。二〇一六年は、日本基督教団 横浜岡村教会の安藤脩先生を助言者としてお迎えし、鍋倉勲先生や委員長の同盟基督教団大分恵み教会の岡山敦彦先生など毎年参加されている方との再会がうれしいものでした。特に印象的なこととして安藤脩先生が救われた時のお話は感動でした。

今回の特別講演は、パウロの伝道についてピリピ書1章からのメッセージを頂きました。戦後、日本にたくさん宣教師が来日されていたことを改めて知ることができました、スタン

レー博士も、日本のため、二、三年おきに一回、アメリカから来日されて、全国で伝道集会を持って下さり、アシラムを始めくださいました。

十回目は八十七歳の高齢で医師から注意されたにもかかわらず早朝から祈り、魂の救いのためにご奉仕下さいました。アシラムの活動を通して多くの伝道者が生まれ、今日の日本の教会が活動しています。これからもアシラムが継続してほしいと願うものであります。

アシラムの恵みはメッセージと共に、普段は交わりを持つことのできない他教会、他教派の方々と親しく交わりを持ち、信仰の証を聞くことができることです。各教会が抱えている問題を聞き、神様の祈りの応答を聴くことは今も生きて働く神様の姿を見ることができて感謝です。ホーリネス戸畑高峰教会の塩屋弘先生は、アシラムに参加した息子さんが献身を決議され神学校に行き牧師になったことをお証をしてくださいました。

私たちの祈りにこたえてくださる神様に感謝し、アシラムに参加して兄弟姉妹と共に祈り、聖霊充滿を頂くことができることを楽しみにしております。昨年は台風の襲来で中止になりましたが、今年はまだ黙想の家に行き兄弟姉妹との交わりが持てることを楽しみにしております。

横浜岡村教会アシラム

日本基督教団 横浜岡村教会

牧師 杉本 和生

横浜岡村教会アシラムを7月14日～15日(日)「イエス・キリストを思う」と題して当教会で行いました。今年度、安藤脩牧師から杉本泉・和生牧師に交代しての初めてのアシラムになりました。開会礼拝で杉本泉牧師からテモテ第2の手紙2章1～13節より、神の子どもとされている恵みを日々受け取っているか、いつも主を思い起こしているかとの問いかけがされました。

開心の時は和生牧師が担当しました。出席者は、一日目16人と人数は少数でしたが、なんと出席者全員が開心の時にニードを告白して、教会全体が祈りの細胞のように心を一つにして、一人ひとりのニードに心を向け寄り添う時が与えられました。「全員が告白するのは初めての経験」、「まさか自分がみんなの前で本音を話すと」と話した方々自身が驚いていました。

今回、ファミリアアワーでは、泉牧師の指導の下、「聖句百選一首・新約編」を行いました。百人一首のように取り札を並べます。読み手が聖句の上の句(前半)を読むと、対戦者が下の句を探して取り合うというゲームです。遠くに置かれた取り札は、手作りの「手」の形をした棒で取るといった具合です。参加者の年齢ですが、上は

九十年代からは十代まで、皆が真剣に聖句に集中して、取り札の争奪を行いました。読み手が繰り返して聖句を読むので、聖句が繰り返す耳に入ってくる。まさに、聖句のシャワーを浴びるような経験をしました。自宅に帰るころには聖句で心がいっぱいになり「悩みも吹っ飛んでしまっただ」と参加者は興奮して話していました。「来年も改良を重ねて是非やりたい」との声が多く上がりました。

二日目静聴の時は、ローマ人への手紙6章から、今給黎美代子姉の司会で恵みを頂きました。その後、こどもアシュラムと祈りの細胞に分かれ、子ども達は教会学校の分級の時間にニードの祈祷課題を紙に書いて、隣の友達にわたし、互いに折り合いました。

充満の時は、和生牧師が担当し、恵みを分かち合いました。今回のアシュラムでは、全員が多くの聖句を受け取り、イエス・キリストを深く思う時となりました。

西川口教会アシュラム

日本基督教団 西川口教会

牧師 金田 佐久子

7月7日～8日と、第43回西川口教会アシュラムが開催されました。コロサイの信徒への手紙がテキストでした。講師の西海満希子先生の力強

いみ言葉の説き明かしをいただき、励まされました。西海先生の説教で、「コロサイの信徒への手紙の主題は『教会の頭はキリスト』です」と語られました。「この頭の働きにより、体全体は、節と節、筋と筋とによって支えられ、結び合わされ、神に育てられて成長してゆくのです」(コロサイ2章19節)。この頭にしっかりと結ばれているとき、キリストの体である教会が育まれ、成長させていただけます。「頭にしっかりと結ばれる」とは、使徒パウロが書いているように「自分がキリスト・イエスに捕らえられている」(フイリピ3章12節)との信仰にとどまることであり、自分の頑張りではないでしょう。説教者として「神が御言葉のために門を開いてくださり、わたしたちがキリストの秘められた計画を語る事ができるように・・・時をよく用い、外部の人に対して賢くふるまいなさい。いつも、塩で味付けされた快い言葉で語りなさい」(コロサイ4章3節、5～6節)の御言葉が心に留まりました。祈りの葉を作りました。ファミリーのメンバーのために一年間祈り合います。

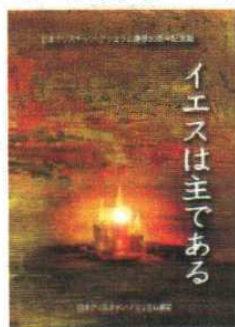


アシュラム予告

- 函館栄光教会一日アシュラム
とき 10月8日(月・休日) 助言者 島隆三師
- 第50回城北アシュラム
とき 19年2月11日(月・休日)
会場 池の上キリスト教会 助言者 安藤 脩師

日本クリスチャン・アシュラム連盟60周年記念誌
「イエスは主である」

スタンレー・ジョーンズ博士によって創められたアシュラム。その日本における連盟60周年を記念して発刊された記念誌。アシュラムのすべてが分かり、アシュラム連盟の足跡が記されています。



また、各地のアシュラムが証しされており、図書の紹介、年表も記されています。無料でお送りできますのでお申込ください。

編集後記

アシュラム運動は日本のみならず各国で広げられ、かつてはエルサレムから開始し、インド、日本、フィリピン、アメリカ、韓国、カナダ、スウェーデンで「国際アシュラム」が開催され、日本からも多くのメンバーが参加されました。今、アシュラムの中心となっています。米国外アシュラム連盟ではホームページを用いて、各地のアシュラムを紹介し、スケジュールも発表しています。自動で日本語対応もしていますので、一度ご覧ください。

検索 → United Christian Ashrams

